

授業改善へのアクション(地区としての取り組み)

習得・活用・探究のバランスの取れた単元づくり

- ・単元において教科でつけたい資質・能力を明確にし、単元を通して力を付ける授業作りを行う。
 - 教科でつけたい資質・能力と学校としてつけたい資質・能力をそれぞれ明確にする。
 - 生きて働く知識・技能にするために「見方・考え方」を働かせ、活用する場面を意図的に設定する。
 - 本時の学びを見童生徒が視点に沿って振り返りを行い、必要に応じて学びを家庭学習につなげる。または、家庭学習での学びを授業に生かす。

教科の本質を捉えた指導と適切な評価

- ・教科の本質を捉えた課題設定と見取りを通した適切な評価を行う
 - 教科の本質にせまるための課題設定を行う
 - 評価規準を明確にし、見童生徒と評価規準を共有する。
 - 多面的・多角的に思考させるとともに、個における思考の再構築を促す。
 - 本時における子どもの学びを評価するための評価問題・活動を実施する。
 - 評価を見童生徒の学習改善・教師の指導改善に生かす。

PDCAサイクルを確実に回す

- 授業改善の結果を全国学調、NRT等の分析で客観的に検証する。
- アクションプランと校内研究をリンクさせてPDCAサイクルを回す。
【CAの充実を図る 客観的データに基づくC(チェック)と焦点化したA(アクション)】